

会議録（概要）

会議名等	令和5年度 第1回四街道市特別支援連携協議会		
年月日	令和5年7月11日（火）	時間	14:00～16:30
場所	四街道市役所第二庁舎第2会議室		
出席者	委員 砂川委員 塩田委員 坂本委員 笠松委員 松崎委員 岩井委員 楠岡委員 安部委員 松崎委員 張能委員 岩森委員 松島委員 高塚委員 小島委員 伊藤委員 事務局 羽田指導主事 大川指導主事		
欠席者	松浦委員 木内委員		
傍聴人	0人		
<p>—— 会議次第 ——</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 教育長挨拶 3 座長・副座長選出 会議録の作成について 傍聴について 4 議題 (1) 各関係機関・団体等における現状と課題について (2) 四街道市の特別支援教育の現状と今年度の取組について 5 諸連絡 6 閉会 <p>—— 会議要旨 ——</p> <ol style="list-style-type: none"> 1～3 会議次第に従い進行 羽田指導主事 4 議題 (1) 各関係機関・団体等における現状と課題について 安部座長：議事に移る。議題の1点目「各関係機関・団体等における現状と課題について」出席の各委員さんからお話をいただきたい。自己紹介を含めてお一人3分程度でお願いしたい。順番は名簿順でお願いしたい。なお、松浦委員、木内委員は欠席であるため砂川委員からお願いしたい。 砂川委員：はじめまして。下志津病院精神科の砂川と申します。平成5年度から勤務。 この会議は石原が出席していたが、今年度からは私が参加することになった。 下志津病院は、私も含めて、受診の枠は増えているが、初診の受診待ち。需要に 			

対して、追いついている状態ではない。学校・地域とぜひ連携できれば。難しいとは思いますが、気軽に電話をかけてほしい。下志津の前は、国府台病院の精神科に勤務していた。本市のすべての学校に特別支援学級があることは、今までの取り組みが実っているところ。引き続き連携協力をお願いしたい。診療・知能検査を病院で受けるように勧めていただいております、これまでは無料だったが今年度7月からは有料。

塩田委員：健康増進課の塩田です。就学前のお子さん、乳幼児の検診・相談を受けている。年々、増えている。ここ10年で、発達面で心配なお子さんは1歳で1・5倍、3歳5か月では1・8倍増えている。乳幼児期から不安を訴える保護者あり。検診などで、診断があったお子さんは保健センターでグループ相談など、状況にあった支援を提供している。育児負担感を持っている保護者対象に、1コース6回程度実施。6回の間で、次につなげるような支援をしている。親子カウンセリングは年間50件ほど。ほとんどは臨床心理士が対応している。療育などを勧められるお子さんが増えている。医療・教育委員会との連携が必要。先生方とも本市の状況を共有したい。就学前のお子さんと保護者は、主に個別相談。要望があれば、幼稚園等へも支援している。言語聴覚士は一人しかいないので、あまり頻度は高くできない。保護者をなるべく孤独にさせないよう努めている。今後ともご指導よろしくお願ひしたい。

坂本委員：障害者支援課の坂本です。精神障害・身体障害・知的障害のある方、ご家族の方の支援を行っている。初めての方や不安な方の相談にのり、支援ができるか見させていただく。どういう支援がいいのか決定する部署。申請に来られる方が増えている。精神障害が多い。障害のある方、または障害児の相談が増えている。対応すべく、基幹支援センターを発足し、そちらで相談を受けている。障害以外の相談も対応している。医療的ケアが必要なお子様に話が進むことがある。医療的ケア児をどう支援していくかも協議会を発足して、協議を進めている。避難時の特別避難計画などもアンケートをとって、どんな支援が必要か集約している。地域生活支援拠点も整理しなくてはいけない。親なき後、障害のある方をどのように地域で受け入れていくかを考えていかななくてはいけない。課題はどこで受け入れていくかがなかなか見つからないなどあるので、ご意見いただきながら進めていきたい。

笠松委員：子育て支援課の笠松です。子育て支援課では、児童福祉に関して、各種事業を展開。虐待対応していく。着任して2年目になるが、1年目で思ったことは、発達支援のある子どもの家庭に虐待が多い。発達障害を持つ子の保護者が、子どもの

特性を理解せず、つい手が出る、というのを感じている。令和5年に親子関係形成事業を立ち上げた。親子間の適切な関係を構築することを目的とした支援を行う事業。具体的には、ペアレントトレーニングを手法としたものを行っている。子供の行動を観察・理解する。子供が達成しやすい指示の出し方、上手な無視のしかたなどをグループワークで学んでいく。昨年は医療保護地域対策としてペアレントトレーニングの手法を学んだ。園関係者で勉強したことが実績。令和5年度「怒鳴らない子育て」と題して、子育て中の保護者を呼んで、保育士とともにペアトレの研修を行い、大変好評を得た。

今後も講演会などを実施する際は、ご参加のほどよろしくお願ひしたい。

松崎委員：4月から中央保育所に着任した松崎です。発達に関することは、保護者が関係機関に相談している件数はわずかである。発達がグレーなお子さんが各クラス数名いる。日々見守っている。寄り添い方が正しいか、ご指導いただきたい。保育士たちもくれよんさんと交流をして、学ばせていただいている。

岩井委員：児童デイサービスセンターくれよんの岩井です。障害者支援課の傘下。現在就学前のお子さんは66名の登録。くれよんを15年前に始めたころは、事業所がなかったのので、市が療育を始めた。今は民間の経営が多くなって、支援体制としては充実してきている。くれよんは日常生活、社会参加を目指して、よりよく小学校に行けるように、10時から1時くらい、短い時間でいろいろな支援をしながら進めている。個別ではなく集団でお母さんにも参加していただきながら、お子さんの様子や適性を見ながら、成長を見てもらっている。小学校や幼稚園と最近では連携をとって、よりよい支援ができるように進めさせてもらっている。年長になると、保護者が悩み、人前でも子供を叱責したりするようなことがあるが、相談に乗りながら、教育委員会と連携しながら、進学に向けて、上手に進めていきたい。

楠岡委員：栗山幼稚園で理事長と園長を兼務している楠岡です。四街道市幼稚園協会の会長も務めている。市内9園中7園が手を取りながら、やっている。支援児が増えていくが、支援児といえどどの子も同じ。協会が多く取り組んでいるのが、研修。幼児教育の専門家だが、特別支援の専門家ではないので、勉強会に力を入れている。子供たちのためにより力を発揮できるようにがんばっている。どの子も良質な教育を受ける権利がある。栗山幼稚園は、まわりの子が支援の必要な子を自然に助けていくように、力を入れているところ。

安部座長：みそら小の安部です。市内でも小さい学校。市内で6校経験している。すべてに、

知的障害特別支援学級と自閉症・情緒障害特別支援学級があるが、他市ではそうとは限らないと聞いて、よいと思った。本校は、全校が107名。全学年単学級。進学に向けて、保護者から相談を受けることもある。子供たちから勉強がわからないと申し出るケースもある。面談を何度も重ねながら進めていく。まずは、特別支援学級での体験。多くの児童からは、楽しいという声がある。そういった声を聴きながら、保護者と合意形成を進めていく流れ。課題は、特別支援教育支援員の確保。本来特別支援学級8名を一人の教員で見ると、特別支援教育支援員をつけていただくと、非常に充実した学習ができています。学校現場を支えている教育委員会には感謝。以前大きな学校にいたときに、通常学級に在籍している子供も支援が必要な子がいた。壁がない。周りの友達関係もよい。保護者の中には、特別支援学級を理解していない親もいる。特別支援学級の児童が生き生きしている姿を見るのがうれしい。皆さんとの連携が欠かせないので、今回参加させていただいて、ありがたい。

松崎委員：四街道特別支援学校の松崎です。4月着任。高校籍の教員。特別支援学校は初めて。四街道特別支援学校は下志津病院の敷地内。病院に併設された特別支援学校。病弱専門は千葉県で2校。あとは仁戸名。以前は入院治療がメイン。今は、通院治療に変わってきた。学校規模としては、50～60名程度の在籍。急に入院が決まった、一か月籍を置く、という形なので、在籍数が一年中上下している。小学部～高等部まである。下志津病院だけでなく赤十字病院や北総病院などに入院している生徒にも訪問して授業を行ったりしている。自宅への訪問も実施。病弱に特化した支援。県内外から相談を受けている。体験で通っているお子さんもいる。転籍するか迷っているお子さんもいる。高等部は義務教育ではないので、院内学級としての対応はできず、週3日くらいしか支援できない。高校生のお子さんが病気になったときに課題。リモート対応してくれる学校もある。一概に高校が全部同じ対応してくれるわけではない。遠隔授業のハードルも下がってきた。

張能委員：今年コロナが5類にかわったが、学校に来られなくなっている生徒もいると感じる。本校はいわゆる全日制普通科3学年×8学級。その中には発達障害と疑われる生徒もいる。なかなか学校に足が向かなくなる生徒もいる。生徒の変化を見逃さないように、教育相談担当が気になる生徒の情報を集めて、みんなでケアしていこうとしている。高等学校になると、進路変更という形で転出する生徒もいる。通信制の高校に転学する生徒もいる。今年度難聴の生徒が入学してきた。入試のときも配慮した。ロジャーマイク、授業者は口元の見えるガードをつけて、授業をしている。入学前に、保護者と共有して、困っていることはないか話を進めている。みなさまから子供たちに対する愛情、教育方法がどうしたら見つかるか、

という話があったが、高校でも社会で活躍できる人材を育てていきたい。

岩森委員：ハローワーク千葉職業指導官をしている岩森です。令和4年度の障害をお持ちの方の就職は583名。そのうち45名が特別支援学校の卒業で、大きな割合を占めている。特別支援学校では就労を希望している生徒さんを支援。特別支援の協議会に出席する機会はないので、この場は勉強させていただく機会ととらえている。児童も含めて、就職に関してキャリア教育が重要。

松島委員：「すけっと」の松島です。4月に配属。対象者・相談内容は問わない。どこも当てはまらない人、制度のはざまに陥っている人、複合的な課題のある人について対応している。みなさんと連携しながらすすめる。すけっとの相談支援は昨年度5517件。626件が四街道。障がい者304件、児童252件。不登校に関する相談、中学校卒業後の相談等。
居場所のようなものを考えていこう、ということで、「すけっと」の地域づくりをしている。

高塚委員：北総教育事務所指導室の高塚です。二年目。北総教育事務所は16市町からなっている。全体的な児童生徒数は減っている中で、特別支援学級数は右肩上がり。33学級299名、昨年度より増加。一クラス8人が上限。小学校では、5～6人学級、中学校では5人学級が多い。通常学級の中でも、個別に支援する児童生徒もいる。進学率は特別支援学級の半分以上が進学。中学校と高校をつなげて、高校進学後の連携を深めたい。通級指導は昨年度と比較して2学級77名増。小さいころから、関係機関とつながって、「いやちょっと」というところから「ぜひお願いします」という流れにしたい。コロナの時には、人との関わりができなかったが、合同学習会・発表会等増えてきた。リモートのいいところは残しつつ、人と関わることがいかに大事なことかということがわかって、また、リスタートしていきたい。

小島委員：クレパスの会から来ました小島です。中学校1年生の特別支援学級の息子を持つ母親。発足当初からいたお子さんはもう就労されている方が多い。小学生から就労されている方まで、幅広い方が在籍している。就労に向けてどう進めていけばいいのか、先輩たちの話を聞きながら進めている。コロナ禍は集まることができなかったのですが、LINEなどを使って情報交換。4月からはまたみんなが集まって、再開している。コロナ禍はだれを頼っていいかわからなかったから、不安だった。私たちが思った疑問や、何で困ったかを吸い上げていただいて、私たち親子、みんなを助けていただきたい。

伊藤委員：指導課で課長している伊藤です。平成19年に事務局をやっていた。特別支援教育が始まるころ、連携協議会を立ち上げて、15～16年経った。支援を受けたいという親御さんが増えてきた。それぞれの関係機関での働きかけがあつてのこと。小学校中学校だけでがんばっていても、話は進まない。就学前、中学卒業後、高校、就労後の話も大事。ここにいるみなさんが協力していくことが大事。この協議会は所属の長の集まり。この下に、作業部会ということで、担当者会議がある。意義のある会議に成長してきている。現場で、実際に動いているみなさんが動きやすいようにご配慮をよろしくお願いいたします。

安部座長：質問や意見があればお願いしたい。

安部座長：下志津病院では受診したい家庭はどのくらい待つのか。

砂川委員：月のはじめに、2か月後の予約を受けている。電話もつながらない状況。

安部座長：「すけっと」周知の仕方はどうされているのか。

松島委員：HPなども設け、インターネットを中心に。

議題の2に進む。

(2) 四街道市の特別支援教育の現状と今年度の取組について

事務局：事務局より説明

安部座長：質問、意見はあるか。

安部座長：質問がないようであれば、議題3「その他」に移る。事務局より説明を。

事務局：資料はなし。青い麦の子振興ふれあい運動会という特別支援学級在籍の児童生徒さんが交流会を行っている。四街道市総合公園体育館で実施している。令和2～4年度はコロナ拡大予防のため、対面を避けていた。今年度は10月18日半日の予定で、運動会を実施する予定。四街道市の特別支援教育の振興を図りたいと考えている。委員のみなさんには、ご案内の文書を送らせていただくので、参加をお願いしたい。

安部座長：今の件について質問はあるか。

学校現場、コロナ禍はオンラインで交流していたが、久しぶりに6月に中学校区

で集まってふれあいをした。子供たちの屈託のない笑顔が印象的。直接会うのはやっぱりいいと思った。人数が多くなって、運営面大変だが、子供たちの笑顔が楽しみ。

質問がなければ本日予定していた議題はすべて終了した。座長の任を解かせていただく。事務局にお返りする。

5 諸連絡

事務局：第2回特別支援連携協議会は、令和6年2月27日（火）14：00から、第二庁舎2階での実施を予定している。

6 閉会

事務局：それでは、これで第1回特別支援連携協議会を閉会する。